



報告書提出日：2002 年 12 月 24 日

KIDS プロジェクト報告書

プロジェクト名： 「KIDS 高校生ボランティア 2001」

プロジェクト・レビュー日： 2001 年 12 月 16 日

1. プロジェクト概要

- 主催： KIDS 高校生ボランティア
- 協賛： 該当なし
- ディレクター： 片山 錬太郎（2001 年通年）
- 日程： プロジェクト承認日より 2001 年 12 月 31 日
- 場所： 各活動内容に因る
- 主な活動内容：
 - ・ KIDS プロジェクトでの高校生ボランティア独自の
広報活動とその準備
 - ・ 大人スタッフを交えての高校生交流会
- 参加者：
 - 高校生 合計 15 人
児童養護施設 14 人
一般応募参加 1 人

事前準備の参加を含む。

KIDS プロジェクト当日参加は 6 名。交流会参加は 5 名。

- 大人スタッフ 6 人

2. プロジェクトの目的

- 高校生の社会生活外部情報の寄与。
養護施設高校生は閉鎖的な社会観になりがちな為、社会の一端を見せる事を通じ、彼らが無意識下での社会認識を芽生えさせる事を目的とする。
- 高校生の自主性啓発及び連帯性啓発。
高校生が自主的に「こんな事をやりたい」の思いを持った時、自分たちの手で何らかの事を仲間と共に構築する事を目的とする。スタッフはそれを現実化する為のサポートとする。



3. 目的を達成するためのチャレンジ

- KIDS 既存プロジェクト内での高校生独自のセクションの発足、実行。
- 年数回に及ぶ社会見学、社会関与の実行。

4. プロジェクトの成果

- プロジェクトの成果
 - 高校生がいると思われる施設全てに参加募集がかけられた。
 - 高校生ボランティアとして新しくお付き合いが始まった施設ができた。
 - 高校生メンバー独自のアルバムを作成できた。
 - 高校生メンバーが自主的、意欲的になれる雰囲気作りができた。
 - 来年につながる交流会が実施できた。
- 他プロジェクトへの展開
 - サマースクール、日韓イベントの紹介

5. プロジェクト評価のための尺度とその実績

- （尺度）高校生主体でのオリジナルなプロセスでプログラムを企画・実行。
（実績）KIDS プロジェクト内で高校生主体プログラムを検討したが、KIDS プロジェクトの性質上、それには限界があった。しかし、限界がある中でも、考えられる最大限のプログラムが実施できた。
- （尺度）年間数回の社会見学、社会関与の実施。
（実績）コマツテクノセンター訪問が受け入れ側のスケジュールの問題で延期に、そして米軍訪問も考えていたが、テロ事件により断念せざるを得なかった。とは言え、「年間数回」の目標には程遠い活動であった。

6. 今後の課題および解決のための提言

（課題）

- 高校生たち自らが企画、実行、反省を行なう活動の実施
- 社会見学の実施
- 広報活動（HP への活動内容掲載。インフォメーションでのスタッフ勧誘。）



(提言)

- 高校生プロジェクト専属スタッフの増員（高校生、大人ともに）
- 定期 MTG の確実な実施

7. プロジェクト収支実績

- 収入：
 - － KIDS 予算 3 0 0 , 0 0 0 円
- 支出：
 - － 交通費 1 2 9 , 2 2 0 円
 - － 会場費 2 6 , 5 8 0 円
 - － 記録費 2 5 , 6 0 8 円
 - － 葉書・封書代 1 4 , 0 9 0 円
 - － 食費 1 8 , 5 8 1 円
 - － 事務用品・コピー代 7 , 4 9 7 円
 - 2 2 1 , 5 7 6 円

以上